

これからの税と日本のあり方を考える



朝日町立朝日中学校教諭 3学年 鈴木 陽子

実施年月日：平成30年7月及び12月 54名

1 実践計画・指導のねらい

私たち国民が、健康で豊かな生活を送ることができるのは、税金を財源として国や地方公共団体が様々な社会資本や公共サービスを提供しているからである。しかし、中学生にとって税制度や国や地方公共団体の働きについて身近に捉えにくいものであり、消費税増税はマイナスイメージと感じている生徒もいた。そこで、生徒が身近に感じられるよう、地方自治の財政を取り上げて、生活と税の関わりに気づかせ、税の役割や納税の義務を果たすことの大切さを理解させる。そこから日本の財政問題や税制度について考えさせ、近い将来には納税者として、主権者として、財政や社会保障を身近な問題として捉えさせたい。また、総合の学習と連携して、第6次朝日町総合発展計画をもとに「将来の朝日町像」を考えながら、地方自治に主体的に関わりようとする態度も育てていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・租税教室 租税教室を通して、税の種類や使われ方、税金の果たす役割を考える。(7月)	○ もしも、税金がなかったらどうなるのだろうか。 ● 税の大切さ、ありがたさがわかった。 ● 税金の使われ方に興味を持った。もっと、調べてみたい。 □使用教材名 副教材「私たちの暮らしと税」 DVD教材 「ご案内します。アナザーワールドへ」 
2	・地方公共団体の仕事と財政 朝日町や山形県の実際の予算や税収、支出について知る。自主財源の割合についても学習する。(7月)	○ 朝日町では税金をどのように使っているのだろうか。 ● 私たちの生活に関わる身近なことにたくさん税金が使われている。(中学生の医療費補助、道路の除雪、ゴミ処理など) ● 多くの地方交付税に支えられている。地方債がある。朝日町の財政は健全なのだろうか。 □使用教材名 広報あさひまち 2018年4月号 平成30年度町政運営の基本方針 平成30年度一般会計当初予算
3 4	・私たちの生活と財政 政府の役割、税制度、これからの財政について考える。(12月)	○ 平成30年度の予算から日本の財政問題を考えよう。 ● 社会保障関係費が多いのは予想していたが、そのほかにも経済協力費や防衛関係費など多くの歳出がある。国庫支出金や地方交付税交付金の割合が高い。 ● 我が国の債務残高が多いことに驚いた。考える必要がある。 □使用教材名 教科書 「新しい社会 公民」(東京書籍) 副教材 「私たちの暮らしと税」 資料集 公民の資料(正進社) 
5	・政府の役割と財政の課題 これからの社会保障と財政のあり方を考える。(12月)	○ 日本の社会保障と財政のあり方について考えてみよう。 ● 国民の負担はやむを得ない、社会福祉の充実に努めてほしい。 ● 国債を返済するために、社会保障を切り下げることがやむを得ない。 □使用教材名 教科書 「新しい社会 公民」(東京書籍)

【指導のポイント】≪1時間目≫

寒江江税務署総務課若谷さんからDVD教材や副教材「私たちの暮らしと税」を用いた租税教室を行っていただいた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

5月～7月の総合の時間に「第6次朝日町総合発展計画」を用いて、行政の役割、町民の役割を確認し、「朝日町の将来像」について考えた。7月には町役場の政策推進科の方を講師に迎え、具体的な話をしていただいた。その後の授業だったので、既習事項をもとに、私たちの暮らしの中で税がどのように使われているか、具体的に知ることによって税の意義についてより深く考えることができた。

【指導のポイント】≪3・4時間目≫

国の財政を家計に置き換えて、歳入面、歳出面から課題を考えさせた。グループでの話し合いでは、それぞれの考えを、根拠をもとに話し合っている場面が見られた。また、地方財政を支えるのに必要だと思っていた地方交付税についても、考えるべきだという意見もあった。

【指導のポイント】≪5時間目≫

日本の社会保障と財政のあり方について、4つの意見を準備し、最も良いと思うものを、グループの中で話し合わせた。自分の意見を「根拠」をもとに発表させた。様々な考えに触れることができた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 租税教室や町の役場の方々の講話を聞くことにより、生徒は社会資本を利用し、行政サービスを受けていることを知り、税金の重要性を知ることができた。
- ◎ 地方財政を学ぶことによって、我が町は多くの地方交付税に支えられていることを知り、税に対する意識を変化させ、自分の行動を顧みる生徒もでてきた。また、身近な政治に興味を持つ生徒も増えた。ふるさと納税や他の地方自治体の財政状況などについて、調べる生徒もでてきた。
- ◆ 税に関する資料が多く、どの資料をどの時間に使用するか難しかった。効果的な指導をするためにもっと教材研究が必要であった。夏休みに税の作文を課題とすることもあって租税教室を7月に実施したが、後半の財政の学習は12月に行っている。指導過程を工夫する必要があった。